

既習表現を使い自分の考えを伝え合う児童の育成 ～言語活動と帯活動における場面設定の工夫を通して～

那覇市立那覇小学校教諭 池村 祐子

〈研究の概要〉

これまでの外国語をふり返ると、単元終末に、その単元で習った表現の一部分だけを言い換えて話す児童や、機械的で単調なやり取りをする児童が多く見られた。

そこで本研究では、既習表現を定着させる帯活動と、児童が「伝えたい」「知りたい」と思える身近な話題を設定し、相手を意識しながら即興で会話ができる場面設定の工夫を行い、その有効性を検証した。

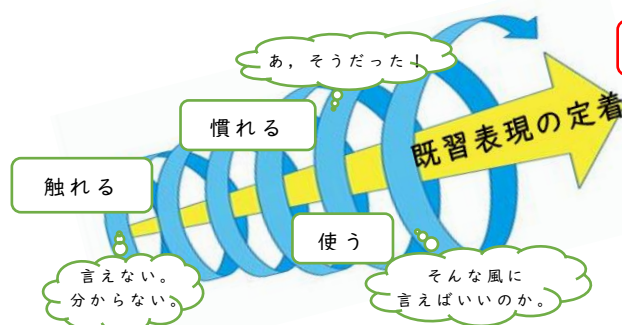
その結果、帯活動を毎時間取り入れることで、その日の活動に安心して参加することができ、帯活動で身に付けた既習表現を活用して即興的に会話を継続できる児童が増えた。また、児童が興味・関心をもてる場面設定で、話す相手を何度も変えることで新たな場面設定のもと、お互いの表現方法や内容からも学び合い、自分の本当の考えを伝え合おうとする児童を育成することができたと考える。

〈研究のイメージ図〉

既習表現を使い自分の考えを伝え合う児童の育成

場面設定

- 興味・関心のある話題
- 相手を変えて会話する
- 考えて話す ……など



モデリング シェアリング



既習表現を定着させる帯活動

- ① 対話式の Greeting + I ★
- ② 前単元の既習表現
 - ③ 前時の既習表現
 - ④ 動詞に焦点を当てる



目次

I	テーマ設定理由	21
II	研究目標	21
III	研究仮説	22
	1 基本仮説	
	2 作業仮説 (1)(2)	
IV	研究構想図	22
V	研究内容	22
	1 帯活動について	
	(1)帯活動とは	
	(2)慣れ親しみ既習表現を定着させる帯活動	
	2 自分の考えを伝え合う児童について	
	(1)言語活動の場面設定の工夫	
	(2)「考えながら話す」言語活動	
VI	授業実践(第6学年)	25
	1 単元の概要	
	2 単元計画(全8時間)	
	3 本時の学習指導について	
	(1)本時の目標	
	(2)授業仮説	
	(3)本時の展開(第4時)	
VII	結果と考察	28
	1 作業仮説(1)の検証 【結果】【考察】	
	2 作業仮説(2)の検証 【結果】【考察】	
VIII	成果と課題	30
	1 成果	
	2 課題	

《参考文献》

既習表現を使い自分の考えを伝え合う児童の育成 ～言語活動と帯活動における場面設定の工夫を通して～

那覇市立那覇小学校教諭 池村 祐子

I 研究テーマ設定の理由

子ども達が社会で活躍するであろう時代は、社会の急速なグローバル化の進展の中で、国民一人一人にとって、異文化理解や異文化コミュニケーションはますます重要になり、外国語によるコミュニケーション能力が必要とされる。その中で、英語を用いて自分の考えや思いを伝え合い、理解し合える日本人を育成する必要性は一層高まっている。

学習指導要領では、「児童生徒の学びの過程全体を通じて、知識・技能が、実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて獲得され、学習内容の理解が深まる」と示されている。つまり、言語活動を通して、外国語のコミュニケーション能力を育成することを中心的な目標としている。

これまでの授業実践でも、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませ、自分の考えや気持ちを伝え合うコミュニケーション活動を行ってきた。本学級の実態をみると「small talk で、本当に自分が言いたいことを相手に伝えることができますか」の質問には、47%の児童が「できる・どちらかというところ」と回答した。しかし、そのうちの50%の児童が「教科書を見て、自分と当てはまるところだけを言い換えている」と回答し、本当に自分が言いたいことを伝えられていないのではないかと考えた。また、「どちらかといえばできない・できない」と回答した児童の69%が「伝えたい言葉（単語）が英語で何て言うのかわからない」と回答し、既習表現の定着が弱いことが分かった。さらに、単元終末でも、その単元で習った表現の一部分を言い換えて話す児童や、対話を続けるための相づちや繰り返し、さらに質問をするというような会話ではなく、機械的で単調なやり取りをする児童が見られた。これは言語活動の場面において、単元のメイン表現に重きを置きすぎた言語活動になっており、既習表現を加えたり、知っている表現で言い換えたりする場が少なかったためではないかと考えた。

そこで本研究では、既習表現を活かした意図的・計画的な帯活動の内容を工夫していきたい。既習表現を使いながら会話が続くやり取りにするために、前時だけでなく、前単元の既習表現も活かしたやり取り、単元終末で必要とされる動詞に焦点をあてたやり取りを行いたい。また、児童が相手を意識しながら、その場で質問したり答えたいくなるような身近な話題を設定したり、「自分のことを話したい」「相手のことを知りたい」と思える場面設定を工夫することで、自分が本当に伝えたいことを考えながら話す児童が育成されることが考え、本研究テーマを設定した。

II 研究目標

既習表現の定着を目指した帯活動を繰り返し行うことや、児童が話したくなるような言語活動の場面設定を工夫することが、既習表現を使いながら自分の考えを伝え合う児童を育成するために有効な手立てかを検証していきたい。

Ⅲ 研究仮説

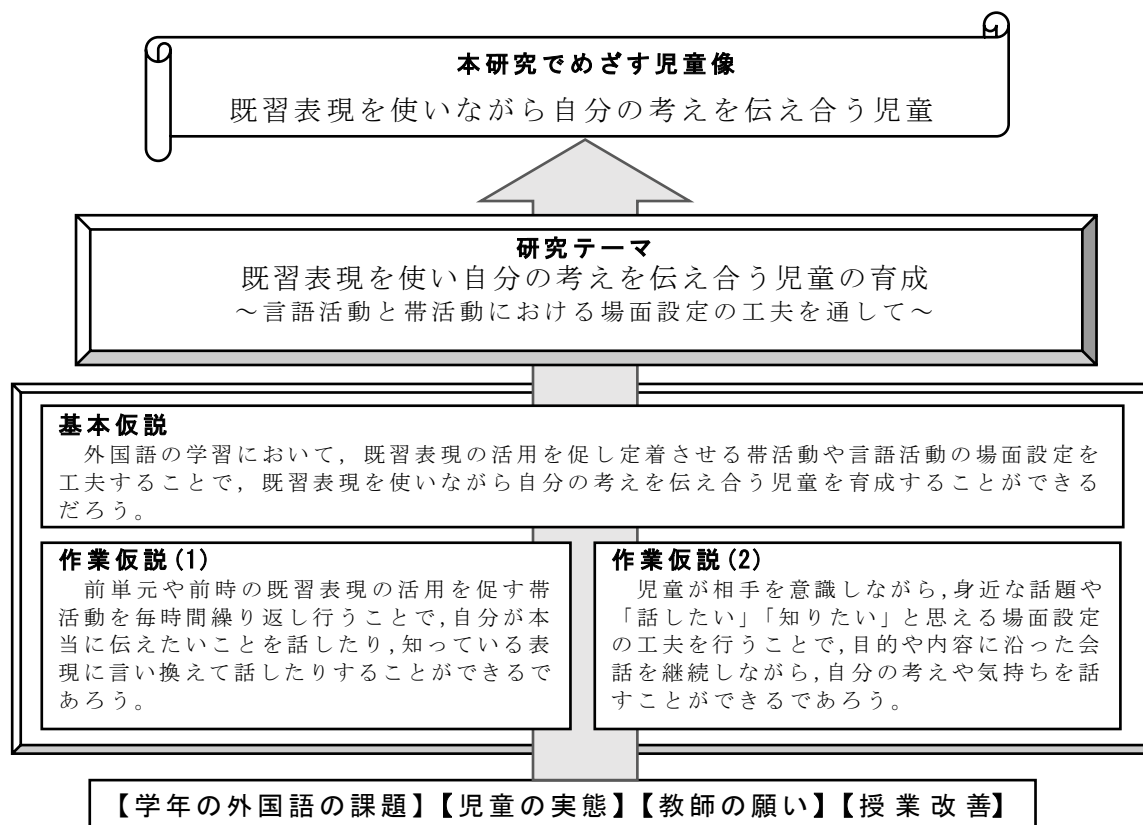
1 基本仮説

外国語の学習において、既習表現の活用を促し定着させる帯活動や言語活動の場面設定を工夫することで、既習表現を使いながら自分の考えを伝え合う児童を育成することができるであろう。

2 作業仮説

- (1) 前単元や前時の既習表現の活用を促す帯活動を毎時間繰り返し行うことで、自分が本当に伝えたいことを話したり、知っている表現に言い換えて話したりすることができるであろう。
- (2) 児童が相手を意識しながら、身近な話題や「話したい」「知りたい」と思える場面設定の工夫を行うことで、目的や内容に沿った会話を継続しながら、自分の考えや気持ちを話すことができるであろう。

Ⅳ 研究構想図



Ⅴ 研究内容

1 帯活動について

(1) 帯活動とは

『学習指導要領解説・外国語編』の目標の中で、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するのは「言語活動を通して」と示されている。川村（2018）は、「外国語学習の最終目標は、実際のコミュニケーションの場で英語を使って臨機応変に対応できるようになることであり、その基盤となるのが『語彙』である。小学

校においては 600～700 程度の語彙や表現を定着させるには、様々な場面で繰り返し語彙や表現に触れることが重要である。」と述べている。また、帯活動について、胡子(2014)は、「帯活動では、授業後半のパフォーマンステストを有機的に行うために必要な基礎力と、それらを活用した思考力・判断力・表現力を育む。input, intake, output を継続して帯活動の中に取り入れることで、英語を使う素地を築き英語を使う体力をつけることができる。」と述べている。

本研究では、語彙や表現を定着させるために、各授業の導入時に毎時間帯活動を取り入れ、児童の英語への興味と学習の意欲を高め、学習におけるつまずきを取り除き、言語材料を定着させていきたい。そのことで、習熟程度の遅い児童は、帯活動で身につけた内容を活用して、その後の活動に安心して取り組むことができると考える。また、コミュニケーションの反射力を高める基礎トレーニングとしても効果があるため、即興的に会話に活かされると考える。

(2) 慣れ親しみ、既習表現を定着させる帯活動

胡子(2014)は、「帯活動での繰り返しにより活動量の確保ができ、生徒の負担を減らし授業と授業ののりしろとなるような横の繋がりも生み出すと共に、ペアやグループの活用により、コミュニケーションを図る人間関係の素地作りも行うことができる」と述べている。

これまでの Greeting(5Qs.)が、機械的なやり取りになっていたため、本研究では、その時間を帯活動に変えて行う。授業の導入時に、意図的・計画的に帯活動を行い、既習表現の定着や対話の続け方に触れさせる、慣れさせる、使わせる、定着させる活動の場とする。帯活動は、AET と児童の 1 対 1 でやり取りを行うことを基本とし、その内容は、これまでの①Greeting を対話式に変え、プラス 1 文（②前単元の既習表現または、③前時の既習表現や④動詞に焦点を当てたやり取り）を加えて行う（図 1）。そのやり取りを継続して行うことで、既習表現の定着の効果が期待できると考える。一人一人の学びを積み重ねることができる帯活動を継続して行い、習得した知識や会話に必要なスキルを活用して、児童が「帯活動で習得した表現を使ってみよう」「話せた、伝わった」と思えるコミュニケーションを目指したい。

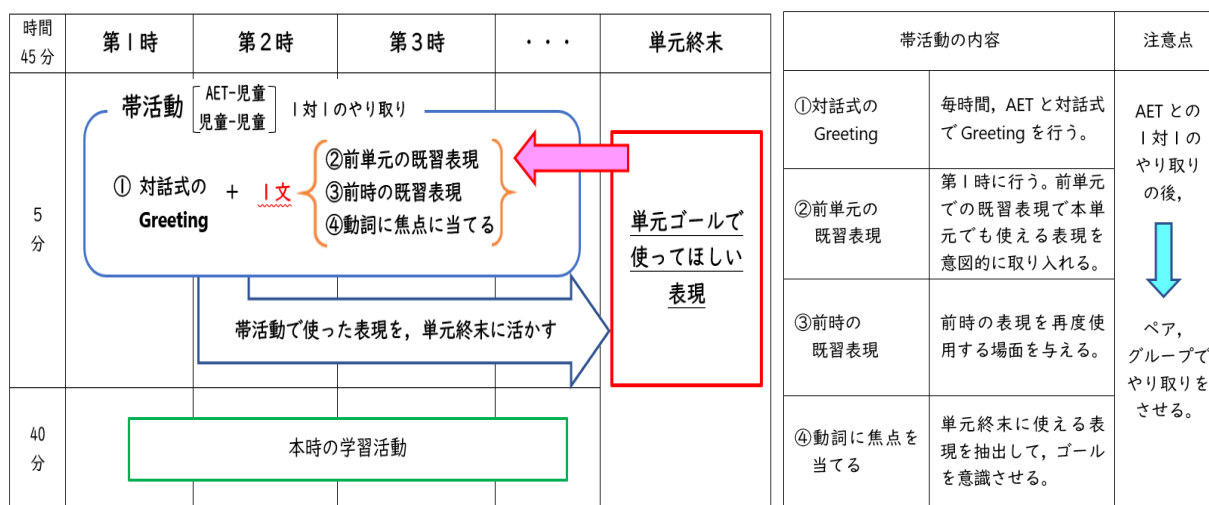


図 1-1 既習表現を定着させる「帯活動」のイメージ

図 1-2 帯活動の内容と注意点

2 自分の考えを伝え合う児童について

(1) 言語活動の場面設定の工夫

直山（2017）は、「機械的に外国語を使ってやり取りをするのではなく、コミュニケーションを図る目的を明確にし、聞いたり話したり、また読んだり書いたりする必然性のある場面設定を行った上で、聞き手がより理解できるよう、コミュニケーションを図ろうとする当事者が互いに配慮すること、つまり、相手意識を持つことが大切である」と述べている。また、「小学校外国語では、『その場で』やり取りして伝え合う力を身に付けることが求められている。そのために、Small Talk 等の活動で、話題に応じて既習語句や表現を常に引っ張り出して使い、単元終末では、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて児童が目的を達成するために必要な語句や表現を取捨選択して活用できるような言語活動を設定することが求められている。」とも述べている。

本単元が始まる前に、AET の家族から「ドイツの新聞に沖縄が紹介されているのを見てもう一度沖縄に行きたくなった。沖縄のおすすめの場所があれば教えてほしい」という手紙と新聞が届いた。そこで、本単元ゴールを「ケルスティン先生の家族の好きなものをたずね、沖縄のおすすめの場所を紹介しよう」という場面設定をした。パターン化された会話ではなく、相手の好きなものをたずね、その興味・関心に沿った会話をしたり、話す相手を変えて何度も会話をしたりすることで、相手に配慮しながら自分の伝えたいことを即興で伝え合うことができると思う。互いの表現方法や内容からも、既習表現の活用の仕方や自分自身に足りない表現に気付いて使うことができる言語活動をしていきたい。

(2) 「考えながら話す」言語活動

山田（2018）は、『考えながら話す』とは、伝えたい『内容』とその内容を伝えるための『英語表現』の両者を同時に考えながら

（思考・判断しながら）話す（表現すること）と捉えている。また、『伝えたい内容の決定→それを伝えるための英語表現の決定→表現』という三者が同時に行われることを指し、即興的な発話を可能とするために、『考えながら話す』言語活動で取り上げる話題は児童にとって身近なものであることが必要」とも述べている。

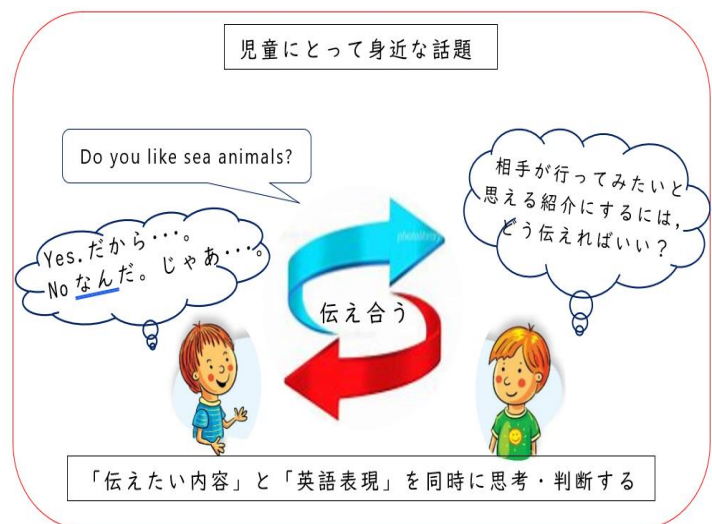


図2 「考えながら話す」のイメージ図

本研究では、型にはまった会話、覚えて話すのではなく、考えながら話す場面を設定する。相手の好きなものをたずねた時に、「Yes」「No」それぞれに応じて内容を考えて紹介しなければならない。その手助けとして、児童から出た沖縄の好きな場所の写真を共有し、それをヒントにしながら話ができるようにしたい。また、相手が「行

ってみたい」と思える紹介にするために、どんな表現を付け足して伝えればよいか、伝える内容や伝え方を変えながら、既習表現を積極的に活用し考えて話すのではないかと考える。授業の Activity だけでなく、帯活動、Small Talk の時間も活用し、その場で自分の本当に伝えたいことが「話せた」「伝わった」ということを実感させたい。

VI 授業実践（第6学年）

1 単元の概要

単元名	Unit 3 I want a big park in our town.
内容の まとめ	第6学年 Unit2, Unit3 「話す（やり取り）」イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ち等を、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。
単元の目標	ケルスティン先生の家族に、沖縄のおすすめの場所を紹介しよう。
働かせる 見方・考え方	おすすめの方法を知ってもらうために、既習表現を使ってどう表現したらより詳しく伝えられるかに着目し、伝える。

2 単元計画（全8時間 ①, ②, ③, ④ p23, 図2を参照）

時間	帯活動	場面設定の工夫	評価方法		
			知	思	態
1	①対話式 Greeting + ②前単元の既習表現 単元ゴールを意識した Teacher's talk 意図的に前単元の既習表現も活用した単元ゴールを見せ、児童に既習表現を意識させる。	めあて・・・単元の見通しを持ち、施設の言い方に慣れ親しむ。 工夫・・・ Teacher's talk で、前単元の既習表現を活用しながら、相手の好きなものをたずねておすすめの方法を紹介したり、会話を続けるためのリアクションを見せたりして、単元ゴールのイメージをもたせる。 モデリング・シェアリング			
2	①対話式 Greeting + ③前時の既習表現 ④動詞に焦点 (施設名について) 施設名だけでなく施設を詳しく説明する1文も追加させ、本時のあつたらしいと思う施設を伝える Activity につなげる。	めあて・・・あつたらしいと思う施設やその理由を伝え合う。 工夫・・・ 身近な地域、家の周りにも目を向けさせ、本当に伝えたい自分の考えや気持ちを伝え合わせる。 モデリング・シェアリング			
3	①対話式 Greeting + ③前時の既習表現 ④動詞に焦点 (あつたらしいと思う施設について) 前時の欲しい施設とその理由の言い方を復習し、本時の自分の好きな場所と理由を伝える Activity につなげる。	めあて・・・自分の好きな場所とその理由を伝え合う。 工夫・・・ はじめに、日本語で会話をさせてから、英語に言い換えさせる。上手く言えない表現を別の表現に言い換えられないか、考えながら伝え合わせる。 モデリング・シェアリング			
4 本時	①対話式 Greeting + ③前時の既習表現 (自分の好きな沖縄の場所と理由について) 本時の Activity で活用してほしい表現、好きなものをたずねる What's your favorite ~? 等を意図的に取り入れる。	めあて・・・友達の好きなものをたずねながら、おすすめの方法を紹介する。 工夫・・・ 相手の興味・関心に沿った内容を即興でやり取りさせるためにペアを何度も変えて行う。 モデリング・シェアリング			
5	①対話式 Greeting + ③前時の既習表現 ④動詞に焦点 (好きなものについて) ケルスティン先生の家族の好きなものをたずねながら紹介する単元ゴールにつなげるために、好きなものをたずねる表現を取り入れる。	めあて・・・ケルスティン先生の家族に紹介する沖縄のおすすめの場所をグループで考える。 工夫・・・ 家族（父、母、姉、弟）が何に興味を持っているか、紹介するおすすめの方法が被らないようにグループで話し合い、即興でやり取りができるよう、グループ練習させる。モデリング・シェアリング			

6・7	話す（やり取り）のテストのため、帯活動は行わず、グループでおすすめの場所の紹介を練習する時間とする。	めあて・・・ケルスティン先生の家族の好きなものをたずねながら、沖縄のおすすめの場所を紹介しよう。 工夫・・・リラックスして会話ができるように、別室で1つのグループとケルスティン先生とでやり取りを行う。 困った時は、グループのメンバーをお互いにサポートさせる。		○	○
8	ペーパーテストのため、帯活動は行わない。	単元のふり返り 単元テスト（ペーパーテスト）		○	

3 本時の学習指導について


(1) 本時の目標

友達のおすすめの場所をたずねながら、沖縄のおすすめの場所を紹介し合うことができる。

(2) 授業仮説

- ① 自分のおすすめの場所を伝え合う場面で、友達のおすすめの場所をたずねながら、帯活動で繰り返し発話した既習表現を活用すれば、おすすめの方法やその理由を伝えたりすることができるであろう。
- ② シェアリング、モデリングの場面で、伝えられなかった表現を別の表現に言い換えられないか、会話が続く表現について全体で共有したり、ペアを変えて何度もやり取りしたりすることで、おすすめの方法がより詳しく伝えられるだろう。

(3) 本時の展開

	学習活動	教師の働きかけ（□） 児童の反応（◆）
導入 10分	1 帯活動 (1) ①対話式 Greeting ③ 前時の既習表現 (好きな場所と理由)	<input type="checkbox"/> 帯活動では、単元を通して全員とやり取りできるように意図的に当てていく。帯活動の時間は5～10分程度で行うことをAETと確認し、児童の様子を見ながら追加の質問や会話が続くコツ等も取り上げていく。 <input type="checkbox"/> AETと児童が会話し、困っている児童には、 <u>AETが答え方を見せる（モデリング）</u> 。 <input type="checkbox"/> 本時の帯活動は、5人とやり取りを行う。 （以下に児1とのやり取りを示す。）
	<p>AET : Hello. <u>What day is it today?</u> <small>帯活動①対話式のGreeting（児2には日付、児3には天気・・・についてやり取りする）</small></p> <p>児1 : It's Wednesday.</p> <p>AET : Question OK? <u>What's your favorite place in Okinawa?</u> <small>帯活動③前時の既習表現</small></p> <p>児1 : My favorite place is Churaumi Aquarium.</p> <p>AET : <u>Oh! Churaumi Aquarium.</u> Why? <small>リアクション（会話が続く表現を見せている）</small></p> <p>児1 : I like fish.</p> <p>AET : <u>Really?</u> You like fish. Nice! <u>What's your favorite fish?</u> <small>リアクション 帯活動③前時の既習表現</small></p> <p>児1 : ...（何て話しているのか困っている様子）</p> <p>AET : <u>My favorite fish is sea turtles. I like sea turtles.</u> <u>What's your favorite fish?</u> <small>答え方を見せる（モデリング） 理由を話す 答え方を示した後、再度質問する</small></p> <p>児1 : <u>My favorite fish is エイ</u> <small>何を聞かれたのかを理解し、モデリングを受けて答えている</small></p> <p>AET : Wow. Nice. Thank you.</p>	
	(2) Teachers' Talk	<input type="checkbox"/> AETの好きなものをたずね、Noと答えた時には話題を変える。Yesと答えたときには相手が行ってみたいと思えるように、詳しい説明や自分の気持ちなども加えて紹介する。また、会話が続く表現も示していく。

	学習活動	教師の働きかけ (□) 児童の反応 (◆)
展開 30 分	2 Today's Goal	友達のお好きなものをたずねながら、沖縄のおすすめの場所を紹介し合おう。
	3 Activity 1 (1) 沖縄のおすすめの場所を伝え合う。(1回目・・・1分)	<p>◆ どうやって始めればよいか、何を聞けば良いか分からない様子で、ほとんど何も言えずに終わる。</p> <p>シェアリング</p> <p>◆ 「どうやってはじめたらいいか分からなかった。」</p> <p>□ 相手の好きなものをたずねながら、その内容に沿ったことを紹介しないと引けないことを引き出し、紹介したい場所が水族館ならどう聞けばいいのか考えさせる。</p> <p>◆ 「What's your favorite sea animal? が使える。」</p> <p>□ 本時の帯活動で行った「○○が好きですか?」の表現も使えることに気づかせる。</p> <p>◆ 「Do you like ~?」「What ○○ do you like?」</p> <p>◆ ペアを変えて、おすすめを紹介し合う。</p> <p>モデリング</p> <p>□ 良いやり取りをしていた児童を全体に紹介し、1回目、2回目のシェアリング、モデリングで確認したことを意識させながら、最後にもう一度最初のペアと伝え合わせる。</p>
	(2) 沖縄のおすすめの場所を伝え合う。 (2回目・・・3分×2回)	
	(3回目・・・最初のペア)	
	<p>2人の1回目の会話は、「Do you like basketball?」「Yes. Golden Kings.」から始まる。お互いに、場所を伝える表現が分からず、考えている間に時間となった。その後、シェアリングやモデリングを重ねる中で、We have a ~.の表現を使い場所を伝え、そこでできることも伝えることができるようになった。お互い自分の好きなそば屋さんを紹介し、表現は間違っているが自分のおすすめのそば屋さんと一緒にいることが伝わったのだらうと思われる。</p> <p>児2 : <u>Do you like sports?</u> (相手を意識している)</p> <p>児3 : No I don't.</p> <p>児2 : <u>Do you like Okinawasoba?</u> 相手がスポーツが好きじゃないと答えたので、シェアリングを受けて、話題を変えて即興で話している。 (場面設定の工夫：考えながら話す)</p> <p>児3 : Yes. I like Okinawasoba.</p> <p>児2 : Ok. <u>We have a Tokuchansoba in Naha city.</u> <u>You can eat delicious Okinawasoba.</u> おすすめ場所を伝えている 詳しく伝えている</p> <p>児3 : Oh! (リアクション、会話を続ける表現)</p> <p>児2 : Let's go to Tokuchansoba!</p> <p>児3 : Oh! (拍手。相手を意識している) <u>Do you like soba?</u> (相手を意識している)</p> <p>児2 : Oh! I like soba. Delicious.</p> <p>児3 : <u>We have a Hanahana Shoten in Naha city.</u> It's Lemonsoba. おすすめ場所</p> <p>児2 : <u>Lemonsoba?</u> (リアクション) Oh!</p> <p>児3 : It's delicious. <u>I want to go to Hanahana shoten.</u></p> <p>児2 : Oh!</p> <p>児3 : Thank you. 相手を誘うために、一緒に行きたいと話している。 (場面設定の工夫：自分が本当に伝えなかったこと)</p> <p>~2人の紹介が終わって時間が余ったので、話題を変えてもう一度やり取りを始める~ 相手が城が好きじゃないと答えたため、話題を変え、即興で会話を続けている。 (場面設定の工夫：考えながら話す) 話す相手を変えて何度も会話をしてきたことで、即興で別の話題で会話を続けている。</p> <p>児2 : Do you like Castles?</p> <p>児3 : No, I don't like Castles.</p> <p>児2 : What's your favorite animals?</p> <p>児3 : My favorite animal is dog.</p> <p>児2 : OK. Do you like animals?</p> <p>児3 : Yes. I like animals.</p> <p>児2 : OK. We have a Kodomonokuni in Okinawa city. You can see cute animals. ~ここで終了の合図~</p>	
	4 Activity 2	□ 英文を書くときのルールを確認し、友達に伝えたことをワークシートに書かせる。
終 末 5 分	5 Reflection	友達におすすめの場所を紹介するためには、何が好きなのかをたずねて、それに合った場所を伝えよう。

VII 結果と考察

1 作業仮説(1)の検証

前単元の既習表現の活用を促すために、帯活動を毎時間繰り返し行うことで、自分が本当に伝えたいことを話したり、知っている表現に言い換えて話したりすることができるであろう。

【結果】

帯活動で扱った既習表現を Small Talk で使おうとする児童の姿や友達同士で教え合う様子が伺えた。また、アンケートの結果（図3）から「Small Talk で本当に自分が言いたいことを伝えることができますか。」では、肯定的な「できる」「どちらかといえばできる」と回答した児童が 47% から 69% と 22 ポイントも増えた。

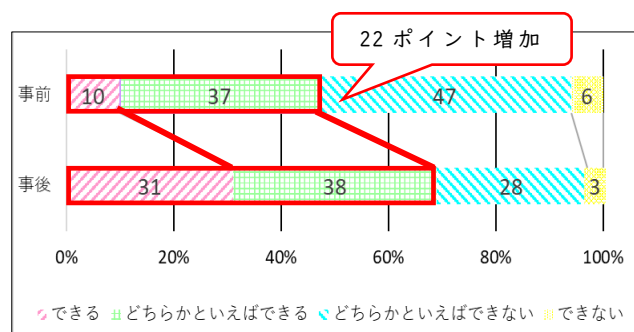


図3 児童アンケート（事前と事後の比較）
「Small Talk で本当に自分が言いたいことを伝えることができますか。」

表1 帯活動でのやり取りについての感想（アンケートより）

児4：最初の先生とのトークで、どんどんなれていった。自分の言いたいことを言えた。
 児5：帯活動をやった前の時間に習った英語を復習できたから会話ができた。
 児6：自分の好きなところや、その理由を話したりして、気持ちを伝えた。

アンケートの児童の感想（表1）、単元末の児童のふり返し（図4）から、帯活動で、身に付けた内容を活用してやり取りができたことが分かった。また、帯活動を継続して行ったことで、安心して活動に取り組めたことが伺える。

ふり返し
 ケレスティン先生に、場所をいた方がいよいよいよいよ
 たので、場所とその場所のできることをたくさんいれと、
 友だちに詳しいいれと、いれと、いれと、いれと、いれと、いれと、
 の言いか(we have~)が分かってよかったです！

図4 単元末の児童のふり返し

【考察】

図3が示す結果は、前単元や前時の既習表現も加えた帯活動を毎時間行うことで、既習表現を活用して自分の考えや気持ちを伝えることができたと考える。帯活動への抵抗感を低くするために、朝の学習時間にその日の帯活動で扱うテーマを提示することで、特に苦手意識を感じている児童が安心して帯活動に参加し、AET とのやり取りを楽しむ様子が伺えた。また、自分が当てられた時だけでなく、友達にどんな質問がくるのか、友達がどう答えるのかを聞くことで、「モデリング」や「シェアリング」の機能も加わり、表現の幅が広がったと考える。単元を通して、全員が AET とやり取りができたことも児童の自信へとつながる手助けとなった。AET とのやり取りに慣れてくると、更に質問を追加し即興でやり取りができるようになっていった。また、授業の Activity の中でも、帯活動での表現を意識させることで、「Februaryではなくて favorite だよ」と思い出して言い直したり、「ちんすこうを説明するなら Okinawan snack. It's sweet. で伝えられるのでは」と言い換えたりする児童の姿が見られた。

以上のことから、既習表現や単元終末で必要な英語表現に焦点を当てた帯活動は、自分の伝えたいことを簡単な表現で相手に伝え合おうとする素地を育成するのに有効

だと考える。

2 作業仮説(2)の検証

児童が相手を意識しながら、身近な話題や「話したい」「知りたい」と思える場面設定を工夫することで、目的や内容に沿った会話を継続しながら、自分の考えや気持ちを話すことができるであろう。

【結果】

表2 質問をしたり、自分の考えや気持ちを伝えたりすることができましたか。(アンケートより)

- 児8：ケルスティン先生のお母さんに東南植物園は楽しい所だと伝えられるように、スマイルやアイコンタクトを意識した。
- 児9：「あなたは何が好きですか?」「あなたはこれが好きですか?」とかを質問して、「私はこれが好きです」も伝えられた。

単元終末のやり取り

りでは、AETの家族に「植物が好きですか」「海が好きですか」などをたずねながら、その内容に合った場所をおすすめすることができた。場所だけを伝えるのではなく、自分が実際に行ったときの気

持ち等を付け足したり、言葉だけではなく、口調や表情、ジェスチャー等も加えたり、より詳しく相手に伝えたいという様子が伺えた(表2・3)。

終末のやり取りは、児童が安心して伝えられるように、グループで行った。それぞれが家族の好みをたずね、家族の興味・関心に合った場所を紹介し、困った時にはお互いにサポートし合いながら、自分の考えや気持ちを伝え、会話を楽しむ様子が伺えた(図5)。また、AETからも、「型にはまった会話ではなく、それぞれのおすすめの場所と理由が違っていて、沖縄の良さを改めて知ることができた。会話も続くようになって楽しかった」というコメントがあり、これまでのパフォーマンステストとの違いを感じられた。

【考察】

本単元ゴールは、「ケルスティン先生の家族に、沖縄のおすすめの場所を紹介する」と設定した。単元の導入時に、どんな話題だと児童が「話したい」「紹介したい」と思えるのか、「誰に、何を紹介するのか」を、できるだけ具体的に紹介する teacher's talk を意識した。児童がよく知っている身近な地域や児童自身が体験し、感じたことにも目を向けさせることで、本当の自分の考えや気持ちを引き出すことができ、即興でのやり取りもできたと考える。紹介したかった場所が、相手には興味がない場所だった場合には、状況に応じて即興で話題を変えなければならない。そのため、第4時では、

表3 単元終末のやり取り

AET : Hello. My family want to come to Okinawa.
Do you know some good places? Please tell me some good places.
児2 : OK. Do your father like ocean?
AET : Ocean? Yes. My father likes ocean.
児2 : Me too. We have a Naminoue beach in Okinawa.
AET : Wow.
児2 : It's fun. You can play swim. (泳ぐジェスチャー)
AET : Wow. swimming. That's nice. Can you swim?
児2 : Yes. I like swim. You can play beach volleyball.
It's interesting. (バレーボールのジェスチャー)
AET : Sounds good. Do you like volleyball?
児2 : Yes, I like volleyball.
AET : Let's play beach volleyball. Good idea!
児2 : Oh. Thank you.

相手の好きなものをたずね、それに合った場所を伝えようとしている。(場面設定の工夫：考えながら話す)

帯活動でくり返し見せた表現を活用している。同じ表現ではなく違う感想の表現を使っている。



図5 単元終末の様子

「友達に好きなものをたずねながら紹介する」と本時のゴールを設定し、話し相手を何度も変えることで、その都度相手の好みも変わり、より即興的なやり取りができるよう工夫した。帯活動での即興的なやり取りをしていることもあって、伝えたい場所とそれを伝えるための英語表現を同時に思考・判断し、会話を続けようとする児童の様子が伺えた。また、毎回ペアの興味・関心に沿った内容を新たに考えながら会話をすることで、楽しみながら積極的にコミュニケーションを図ろうとする前向きな姿勢にもつながったと考える。既習表現を使って、質問を投げ返したり、他の友達の考えと比べたりすることで、コミュニケーションの楽しさを感じさせることもできたと考える。さらに、「モデリング」や「シェアリング」の場面では、語句の意味や使い方の理解を深めたり、言いたいけれど言えなかった言葉や表現を、既習表現で言い換えたり考えを整理したりすることで、お互いから学び合うこともできた。

このことから、児童が興味・関心をもてる話題を設定し、相手を意識させながら即興で表現する場面設定を工夫することは、自分の考えや気持ちを話そうとする有効な手立てとなると言える。

これまで、児童が表現の一部分だけを言い換える、機械的で単調なやり取りになっていたのは、教科書の流れに沿う言語活動を中心に行い、児童が本当に伝えたいと思える場面設定の工夫が足りなかったことも原因の1つだと考える。今回は、学習内容を入れ替えたり、児童が本当の考えや気持ちを伝えようと意欲的になるにはどういう場面設定が有効かを考えたりしながら、単元を通して場面設定を工夫した。児童が興味をもって自分の本当のことを伝えようとする言語活動を単元終末のみでなく、毎回の授業でもくり返し行うことが、大切だと考える。

Ⅷ 成果と課題

1 成果

- (1) 既習表現を取り入れた帯活動に毎時間取り組むことで、帯活動で使用した既習語句や表現を引き出し、取捨選択しながらコミュニケーションを継続する児童が増えた。
- (2) 相手を意識させながら「話したい」「知りたい」と思える身近な話題を設定することで、自分の考えを伝えながら即興で会話を続けることができた。

2 課題

英語を使って自分の考えや気持ちを伝えるためには、語彙や表現の定着が不可欠である。帯活動でくり返しやり取りを行っても、語彙や表現が十分に定着していない児童もいたため、その児童に対しては、支援を継続していく必要がある。

《主な参考文献》

『小学校学習指導要領解説 外国語編』	開隆堂出版	文部科学省	2018
『四技能を高める英語「帯活動」シリーズ2』		胡子美由紀	2014
https://ex-englishteacher.com/englishclass-introactivity			
『初等教育資料』文部科学省	藤原印刷	直山木綿子	2017
『「考えながら話す」小学校英語授業』	日本標準	山田 誠志	2018